

頑固職人の詩

その1

爺さんが作った家

作：あさからねむた

爺さんが作った家

爺さんが、一心不乱に家を建てている。それもたった一人で。

トントン！ カンカン！ 今日の響きは、高く澄んでいる。

いい感じ！ 来てるよ！ って、木材たちが喜んでいる。

爺さんは、雨の日は仕事をしない。この家を建て始めてからずっとだ。

ボムボム！ とか ギシギシ！ とか、変な音がするからだ。

冷てえな！ とか 滲みるぜ！ とか、木材たちが怒るからだ。

爺さんは一度、助っ人をお願いした。そしたら、達人が来てくれた。

トン！チン！ カン！トン！ 息が合わないようだ。

ドボ！ゴン！ ガギ！ゴゲ！ 最後まで、合わないものは合わないものだった。

月日が流れ、その間にいろいろあったけど、やっと家が完成した。

爺さんが木材の想いを聞きながら、やっと完成させた家。

トントン！ って、階段はリズムカルに降りてよね。

ゴンゴン！ って、やたら壁を叩くんじゃない。

あ～あ、水をこぼしちゃ駄目だろ。

時々その柱を、コンコン！ してね。

木材たちが、やたらうるさい。

仕方ないか。

この家は、爺さんが、木材のために作った家だからな。